大学院特別講義
分子細胞機能学・神経生化学(生化学第二)セミナー

日時：11 月 22 日（月）午後 5 時半—6 時半
場所：第三講義室
演者：**矢冨 裕 教授（東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学；日本内科学会理事長）**
演題：生理活性脂質の臨床検査医学：新規疾患ﾊﾞｲｵﾏｰｶｰの開発を目指して

臨床検査は基礎医学（特に生化学）と、臨床医学との接点として、基礎研究からの成果が新たな分子情報として提供されると、これをもとに、さらに精密かつ特異的な診断、治療効果の判定を行う方法を実用化しています。矢冨　裕先生は、血液内科医からスタートして、血小板のリン脂質の研究からリゾリン脂質代謝研究を展開し、臨床検査の現場で保険収載にまで発展されています。今回は、矢冨教授からご専門のオートタキシンなどの研究を伺い、同時に Bench to Bed の実践原理、生理活性脂質研究の新展開、といった多様な視点から講演いただく予定です。基礎・臨床を問わず、幅広いご参加者を歓迎いたします（録画により、後日、期間限定のｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ配信予定）。

（演者ご略歴）1983（昭 58）年東京大学医学部医学科卒業；同年東京大学医学部附属病院内科研修医；1985（昭 60）年同第一内科入局；1991 年山梨医科大学（現・山梨大学医学部）助手；1997（平 9）年同助教授；2003（平 15）年東京大学大学院医学系研究科臨床検査医学助教授；2004（平 16）年同教授昇任；同医学部附属病院中央検査部長兼任；2016（平 28）年現職（名称変更）；同大学院医学系研究科副研究科長を歴任（2011－19）.2020 年（令 2）より日本内科学会理事長；この間、Biomembrane Institute(Seattle, WA, USA)留学(1994-97)；医学博士（東京大学）

（抄録）疾病の診断，病態の評価に役立つ新しい臨床検査の開発は，臨床検査に携わる者の重要な課題です．私たちの研究室では，生理活性脂質の（病態）生理学的意義の探求，それ自身またはその産生酵素/運搬体/受容体の臨床検体を用いた測定・解析を通じ，その成果の臨床検査医学への展開を目指してきましたが，近年では，とくに第二世代の生理活性脂質と称されているﾘｿﾞﾘﾝ脂質を中心に研究を進めています．血小板に豊富に含まれ，活性化とともに放出されるｽﾌｨﾝｺﾞｼﾝ 1-ﾘﾝ酸（sphingosine 1-phosphate; S1P）の研究から開始し，ﾘｿﾞﾎｽﾌｧﾁｼﾞﾝ酸（lysophosphatidic acid; LPA），さらにはﾘｿﾞﾎｽﾌｧﾁｼﾞﾙｾﾘﾝ（lysophosphatidylserine; LysoPS）へと対象を広げてきました．

本講演においては，S1P，LPA，LysoPS とその関連ﾀﾝﾊﾟｸ質の測定の意義・臨床応用に関して，私たちの教室のﾃﾞｰﾀを中心に紹介させていただきます．

(ref) Yatomi Y *et al*.: *Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci* 94: 373 [18].

（連絡先）教授　五十嵐　道弘 (tarokaja@med.)